～福祉の街づくりを目指し～
『福祉展』に850人が来場

各施設から出品された作品は好評

恒例となった『南国市福祉展』が九月十八日、十九日の二日間にわたって社会福祉センターで開かれ、約八百五十人の市民が訪れました。

これは、市民の連帯とボランティア意識を深め、福祉の風土づくりを―と、市・市社会福祉協議会の主催で毎年開かれているもので、今年で六回目になります。

十八日午前十時、小笠原市長、高橋増治社会福祉協議会長がテープカットして開幕。

展示室には、土佐清風園のお年寄りが書いた書画、土佐希望の家と南海学園からは子供たちの作った玄関マットやクッション、のれんなどが並び、また福祉協力校の稲生小、奈路小、日章小、久礼田小の児童の習字や木工作品なども展示されるなど約六百五十点の作品が並びました。一部の作品は即売も行われ、会場を訪れた人たちは手に取ってながめていました。

そのほか、精神薄弱者援護施設「光の村」のパネル展や、身体障害者授産施設「小高坂更正センター」で作られたタンスや小物入れなどの木製品の販売コーナー、補装具の展示や修理、相談なども行われました。

また市民の協力で集まった品のチャリティーバザーは、特に主婦に人気で、その売上金は社会福祉に役立てていくことになっており、二日間にわたって福祉に対する意識を高めました。

交流深め楽しく

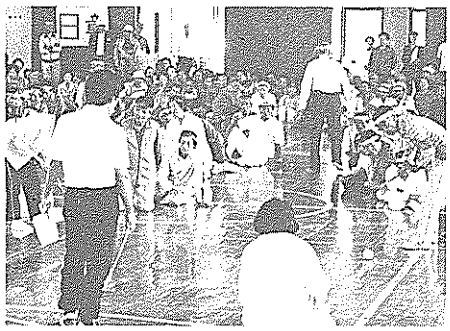
《62年度老人体育大会》

スポーツを通じて、健康の保持と生きがいを高め老人福祉の増進をと、市老人クラブ連合会・県老人クラブ連合会主催の「南国市老人体育大会」が十月三日、市内各地区から約八百人のお年寄りが参加して、市民体育館で行われました。

まず、門田早苗大会長らのあいさつの後、前年度優勝チームの稲生・十市連合チームが優勝旗を返還。続いて、国府チームの窪添政幸さんが力強く選手宣誓。準備体操の後、八チームに分かれて、競技に、応援にと、思い切りいい汗を流しました。

結果は次のとおりです。

優勝＝稲生・十市連合チーム
二位＝大篠チーム
三位＝岡豊チーム



和気あいあいと楽しく競技

秋の味覚がいっぱい

◇土曜市19周年感謝祭◇

今年も恒例の土曜市感謝祭が十月三日、土曜市会場で開かれ、多彩な催しに朝から大勢の人でにぎわいました。これは土曜市組合が毎年開いているもので、今年が十九周年。

この日は、姉妹縁組を結んでいる愛媛県広見町の近永日曜市も特別出店。会場の入り口に設けられた特設コーナーでは、クリ、シイタケなど山の幸も豊富に並べられ、売り子の威勢のよい掛け声とともによく売れていました。

このほか、NTT南国電報電話局、JR後免駅、後免商店街、南国郵便局が特別参加。テレホンカードやオレンジカードなどに人気が集まっていました。

また午後からは、チャリティーバザーや、もち投げも行われるなど、感謝祭は一日中盛り上がっていました。

クリのつかみ取りなど、多彩な催しで盛り上がった感謝祭